

## 川島誠一郎先生を送る言葉

守 隆 夫 (動物学専攻)

川島誠一郎教授は昭和9年11月20日に東京都でお生まれになり、都立新宿高校を経て、昭和29年4月に東京大学教養学部理科II類に入学されました。その後、昭和31年4月に東京大学理学部生物学科動物学課程に進学、昭和33年3月には同課程を卒業、4月には東京大学大学院生物系研究科動物学専門課程修士課程に進まれました。昭和35年3月に修士の学位を取得、そのまま同博士課程に入られました。昭和36年10月には休学されて、米国ワシントン州立大学大学院に入学されました。このときは、同大学院の Research Assistant にも採用され、渡り鳥の内分泌学的研究に従事されております。その後、昭和38年6月に東京大学の博士課程に復学されて、昭和40年3月には同課程を修了し、理学博士の学位を受け取られました。

大学院卒業後、直ちに東京大学理学部動物学教室第三講座の助手に採用され、学部学生の実習、大学院生の実験指導などを担当されました。昭和45年5月には講師、昭和47年5月には助教授と昇任され、その後、昭和56年4月に広島大学理学部動物学教室の教授に栄転し、広島大学動物学教室における教育、研究、運営などに大きな貢献をなされました。しかし、昭和63年10月には東京大学理学部教授として戻られ、古巣の動物学教室第三講座を担当されました。教授として東京大学に戻られてからは、教室主任、生物学科長などの激務をこなされながら、多くの学生を育て動物学教室の発展に尽されました。特に生物学科3教室(動物学教室、植物学教室、人類学教室)の改組拡充に当たり、対外的交渉にたいへん努力され、生物科学専攻が誕生しました。川島教授はこの間、大学設置・学校法人審議会専門委員、学術審議会専

門委員などを歴任され、わが国における理学、特に動物学分野の発展に大きな功績を残されております。御専門の動物学の分野においても、社団法人日本動物学会の評議員および理事、日本比較内分泌学会の会長、日本基礎老化学会評議員、日本動物心理学会理事など数々の要職を勤められ動物学の発展に貢献されました。

御研究の概略ですが、専門分野は哺乳類の内分泌学であり、主なテーマを列挙しますと、中枢神経系の分化・成熟に対するステロイドホルモンの役割に関する研究、視床下部-後葉系のエイジング機構、下垂体前葉から分泌されるプロラクチンのエイジングに伴う分泌過剰発現に関する研究、エイジングに伴う生殖腺機能の低下に関する研究などで、ホルモンとエイジングの相互関係を研究されました。この間、世界的に評価の高い数多くの業績を発表され、これに対して平成元年度の日本動物学会賞を受賞されております。

以上のような研究・教育面での業績、学会活動などもさることながら、先生はあらゆるスポーツが得意であり、特に職員の野球大会などの常連でありました。ピッチャー、ショートとまさに万能選手で、学生を相手に現在も現役で活躍されております。先生はたいへん若々しく、さすがエイジングの研究をされておられるだけあって、不老不死の極意を会得されているのではないかと、皆からうらやましがられております。御退官後は製薬会社の研究所で研究を続けられるとのこと、今後ますますの御活躍をお祈りして、先生を送る言葉とさせていただきます。